

【内容及び所見】

第7回西日本選手権が開催されました。本大会は全日本選手権前最後の2000mレースということで、関西地方を中心に幅広い年齢層のクルーが参加し、2日間の日程で行われました。今治造船ボート部は男子舵手無しクォドルプルにエントリーし、全てのレースを1着ゴール、先週の中日本レガッタに引き続いて優勝を収めました。今治造船ボート部として第100回全日本選手権大会優勝へ良い流れを作ることができています。



今治造船クルーは中日本レガッタと同じシート順で出漕いたしました。ボートの進行方向と反対側から、S 木村(2022年度入社) 3 越智(今治品質管理 T) 2 岡部(今治安全管理 T) B 御手洗(今治生産管理 T) の順となります。木村選手の持つ秀一な漕ぎのリズムを3 番越智選手・2 番岡部選手の全日本選手権入賞多数ペアが B の御手洗選手へつなぎます。4人乗り種目においてはただ動きを真似するだけでは艇をスピードに乗せることができません。各メンバーが認識を共有し、各々が艇に対して無駄のない加速を与えることで、全体としてまとまって艇を動かしています。このことを実現するために、ビデオやエルゴ(陸上でボートの動きを再現できるマシン)を用いて何度も認識のすり合わせ作業を行ってまいりました。今治造船クルーのスピード・圧倒的な強さはこのような試行錯誤の上に成り立っています。

男子チームの今シーズンの最大目標である、第100回記念全日本選手権大会(5月12日(木)～15日(日) 於：東京都江東区、海の森水上競技場)まで残すところ3週間となりました。中日本レガッタ・西日本レガッタと比較すると全日本選手権のレベルは格段に高くなりますが、今治造船クルーが磨き上げてきたスピードはきっと通用するという確信を持っています。全日本選手権はチケット制となりますが新型コロナウイルス確認以来、初めて有観客試合として開催されます。現地に駆けつけて応援して下さる方々の目の前で素晴らしいレースができるよう、更なるスピードアップと調整に専念してまいります。



●コロナ禍での開催ということで、遠征中の食事は全てテイクアウトを利用しました。大阪府の飲食店の店主の方には、店休日にも関わらずお弁当を届けて頂くなど、人の温かさを痛感する遠征となりました。

●今治造船ボート部は、twitter や facebook や Instagram の SNS を利用し、大会結果や大会の様子をいち早く公開しております。各種 SNS はマネージャー・サポートスタッフの他、選手たち自身も更新しており、遠征中の何気ない風景から臨場感あふれる試合風景に至るまで、多くのファンに好評を頂いております。

西日本選手権においては優勝の投稿を見たファンの方々から、多くのメッセージを頂きました。中にはレース動画を送ってくださったファンの方もいます。無観客試合とはいえ、SNSを通じたファン交流によって、今造ボート部陣営は大きな盛り上がりを見せました。



▲ Instagram で人気を集めた画像。サポートスタッフと選手が一体となって掴んだ勝利であることを表現しました。SNS ならではの自由かつカジュアルな表現を大切にしています。

